

最近老後生活の所要金額に就き、壽命百歳に平均二十萬圓が年金以外に必要なとの試算に、大いなる反響を呼び、特に「百年安心の年金制度設計」を引合に、政府の年金政策への批判相繼ぎ、本年夏の参議院選挙への影響大なりと云々。

老後の生活に就き、我ら昭和一桁世代は、敗戦後の超インフレにより、親の世代が長年積立てたる各種保険、貯蓄の類の大幅目減りを目の當りとせり。然あれども、識者なほ貯蓄を奨励し、特に年率7%の複利計算は十年二倍に當れば、若年よりの貯蓄、老後年金を補ひて足るべしと説きけり。

然るに平成十一年所謂ゼロ金利政策が始り、若干の解除を含み今日なほ續く。奇怪にも、我が國の工業は低賃銀労働を求めて韓國、中國などへの進出に狂奔し、このゼロ金利を大型新規事業の資金需要に活用する少く、またこの間にゆとり教育もあり、かくて生産性、収益性の伸びも低位に留り、世界的順位も低下するに至る。この二十年間ゼロ金利により、現役世代の貯蓄増加が不可能となり、且つ退職後の生活資金も貯蓄元金の取崩しを要す。結局我ら世代も、全く豫想外の世の展開に右往左往するのみなり。

今や高齢化社會として、人間壽命の伸び著しと雖も、七十歳代後半以降は高給を取る程の働きはできぬものなれば、寧ろ老後の生りはひととしては、幼少の子等を教へて、その成長に喜びを求むるに若かずや。教ふる内容は、読み書き算盤を始め、各種武道、藝道の類等、我が國文化の中には多種多様の分野限りなし。その選擇と準備は退職の前後より始むべく、またそのための専門技能講習等を受ければ自身の能力向上にも資すべし。當に改正教育基本法の前文に言ふ「傳統の繼承」の實踐に他ならず、近所の子等より始めて、薄謝を得るに至らば幸ひこれに過ぎざるべし。

當苑近く岐阜市にてシンポジウムを開催す。我が同志の友山森智之<sup>さとし</sup>氏同市にて三人の御子さんあり。小學校五年、三年、一年にて、嘗ての高校時代の恩師に論語など四書の素讀暗誦を習はしむるに、三人夫々に字音假名遣による訓み下しを含め輕々と熟<sup>こな</sup>すは壓巻にて、戦後の教育理論を論破すと云々。機會あらば御參觀あられむことを。

(令和二年六月二十四日受附)